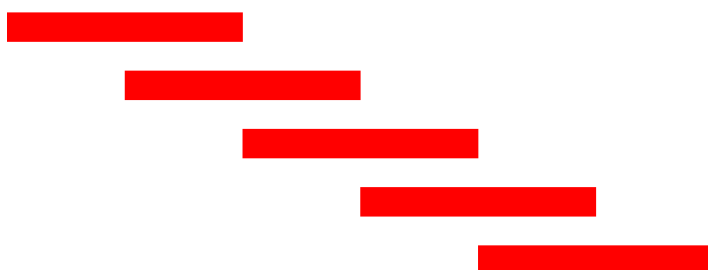


76回生からの読書案内

(中学生)



甲南女子中学校・高等学校 図書館

読書案内の見方（中学生）

著者名
『書名』（出版社）

請求記号

◆紹介者がまとめてくれた、あらすじ

【紹介者がこの本を読んだ学年】

【紹介者のお勧めのひとこと】

（紹介者の氏名）

（請求記号を記載していない本は、本校図書館では所蔵していません。）

目 次

お勧めの本は、日本人の著者は姓名の五十音順に、
外国人の著者は姓名のアルファベット順に並べて、掲載しています。

青木和雄；吉富多美	……	p. 1	齋藤孝	……	p. 7
あさのあつこ	……	p. 1	櫻いいよ	……	p. 7
浅葉なつ	……	p. 1	櫻井千姫	……	p. 7
朝日文庫編集部	……	p. 1	佐野徹夜	……	p. 7
阿部智里	……	p. 1	汐見夏衛	……	p. 8
綾辻行人	……	p. 2	重松清	……	p. 8
有川浩	……	p. 2	鈴木るりか	……	p. 9
有島武郎	……	p. 2	住野よる	……	p. 9
粟田房穂	……	p. 3	瀬尾 まいこ	……	p. 9
伊坂幸太郎	……	p. 3	背筋	……	p. 10
石黒謙吾文	……	p. 3	宗田理作	……	p. 10
磯淵猛	……	p. 4	太宰治	……	p. 10
井上ひさし	……	p. 4	太刀川瑛弼	……	p. 11
井上真偽	……	p. 4	知念実希人	……	p. 11
今村夏子	……	p. 4	辻村深月	……	p. 11
上橋菜穂子	……	p. 4	坪田信貴	……	p. 12
内田洋子	……	p. 5	津村記久子	……	p. 12
王城夕紀	……	p. 5	梨木香歩	……	p. 13
小川糸	……	p. 5	夏目漱石	……	p. 13
恩田陸	……	p. 5	七沢ゆきの	……	p. 13
加藤シゲアキ	……	p. 5	七月隆文	……	p. 14
川上弘美	……	p. 6	西加奈子	……	p. 14
川北義則	……	p. 6	西川司	……	p. 14
朽葉つむぎ著；真田ま	……	p. 6	博学こだわり倶楽部	……	p. 15
黒柳徹子	……	p. 6	はやみねかおる	……	p. 15
コムドットやまと	……	p. 6	東野圭吾	……	p. 15
小森宏美	……	p. 7	百田尚樹	……	p. 16

日向 夏	…… p. 17	アンネ・フランク	…… p. 22
平山夢明	…… p. 17	ダン・ブラウン	…… p. 22
藤まる	…… p. 17	アガサ・クリスティー	…… p. 22
藤原てい	…… p. 17	チョン・ハンギョン	…… p. 23
ブレイディみかこ	…… p. 17	J.K.ローリング	…… p. 23
前川ほまれ	…… p. 18	フランツ・カフカ	…… p. 24
町田そのこ	…… p. 18	ダニエル・キイス	…… p. 24
松原 始	…… p. 18	キャスリン・ラスキー	…… p. 24
三秋縊	…… p. 18	モンゴメリ	…… p. 24
水野敬也	…… p. 18	ドナ・ジャクソン・ナカザワ	…… p. 25
湊かなえ	…… p. 19	O.ヘンリ	…… p. 25
村上 春樹	…… p. 19	R.J.バラシオ	…… p. 25
木宮条太郎	…… p. 19	シャルル・ペロー	…… p. 26
望月麻衣	…… p. 20	E. A. ポオ	…… p. 26
桃戸ハル	…… p. 20	サン＝テグジュペリ	…… p. 26
森絵都	…… p. 20		
森見登美彦	…… p. 21		
柳田理科雄	…… p. 21		
吉野源三郎	…… p. 21		
米澤穂信	…… p. 21		
和田裕美	…… p. 22		

青木和雄;吉富多美

『ハッピーバースデー』（金の星社）

913. 8/ア

◆母親からの虐待により、声を失ってしまった主人公のあすか。塞ぎ込んでいたあすかが、ある人との出会いから、思いと心を新たにします。そして最終的には友人を変え、母までも変えてしまいます。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 私の趣味の一つは読書をすることです。そんな私が“本を読むことは楽しい”そう感じるきっかけとなった1冊です。

（長富日向）

あさのあつこ

『The MANZAI』（KADOKAWA）

913. 8/ア/1

◆ある10月の日、訳ありの中学2年で転校生の瀬田歩は、クラスメイトの秋本貴史に『付き合ってくれ』と言われる。秋本と一緒に漫才コンビを組んでくれという意味で言ったのだった。その後、瀬田は無理矢理コンビを組まれ、文化祭で漫才を行うことになったのだが。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 お互いに家庭の事情や、人には言えない背景を持っていて、何気ない言動でお互いを救っていくのが良いと思った。

（大崎暖々花）

浅葉なつ

『神様の御用人』（KADOKAWA）

913. 6/ア

◆野球をあきらめ、おまけに就職先まで失った萩原良彦。彼がある日突然命じられたのは、神様の願いを聞く“御用人”の後目だった。人間味あふれる日本中の神様の悩みを聞くハートウォーミング神様物語。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 実際にある神社、古事記に載っている神様を取り上げているので、親近感が湧くし、旅行に行ったとき寄りたくなるような、心が温くなる話です。

（長舟祐里）

朝日文庫編集部

『マイメロディの『論語』：心豊かに生きるための言葉』（朝日新聞出版）所蔵無し

◆古代中国から2500年もの間読み継がれた古典『論語』をマイメロディと一緒に読み解く。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 古典の授業で扱う『論語』と「マイメロディ」という文字の並びに驚き、手に取りました。論語の言葉をマイメロディの可愛いイラストと共にやわらかく解釈されていて、中学生も楽しく富み進めることができますと思います。

（井上夏希）

阿部智里

『烏に単は似合わない』（文藝春秋）

913. 6/ア/1～6

◆人間の代わりに「八咫鳥」の一族が支配する世界「山内」では、世継ぎである若宮の後選びが始まろうとしていた。朝廷での権力争いに激しくしのぎを削る四豪の久貴族から差し遣わされた四人の姫君。次々と事件が起こる中、その犯人は誰なのか、后に選ばれるのはいったい誰なのか。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 この本は美しい姫君たちの争いが決して平穏なものではなく、ミステリーでもあり、ファンタジーでもあり、様々な方向から楽しめる本です。私はこの1冊目を初めて読んでから気に入って過ぎて、1ヶ月で全6巻すべて読んでしまったほどです。

（伊藤明莉）

綾辻行人

『十角館の殺人』（講談社）

913.6/ア

◆謎の死を遂げた建築家・中村青司が建てた館、十角館。そこに訪れたミステリ研究会の七人が次々と連続殺人に巻き込まれていく。読者を待ち受けるミステリ史上最大級の驚愕の結末とは。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 孤島・奇妙な館・連続殺人。この3つがそろっていておもしろくない本はないでしょう。館シリーズ一作目になる本作は本格ミステリの金字塔であるとともに、斬新な手口や驚きの結末は新しささえ感じさせてくれます。この本を読まずに現代ミステリは語れません。

（藤田彩夏音）

有川浩

『図書館戦争』（角川書店）

913.6/ア

◆架空の時代、正化31年が舞台。「メディア良化法」の法律の下、不適切な表現があるとされる書籍や音楽作品が検閲で取り締まられる世界で、唯一図書館だけが「図書館の自由法」により検閲に対抗できる。主人公の笠原郁は検閲から本を守った図書隊員に憧れ、図書隊に入隊する。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 図書館戦争、内乱、危機、革命と続くシリーズで、長い期間楽しめます。ラブコメやSFの要素もあり、登場人物たちは魅力的でのめり込んで読めます。今でも印象深い作品です。

（小嶋彩夏）

有川浩

『レインツリーの国』（新潮社）

913.6/ア

◆主人公は顔も知らない女の子と本をきっかけにやりとりをしていたが、電話はできないと言われた。初めて会った時に理由がわかる。

【お勧めの点】 身近に障害者がいない人でも、障害をかかえている人について考えることができると思います。

（見尾夏実）

有島武郎

『一房の葡萄』（明治図書出版）

080.9/メ/6

◆小さい頃、絵を描くのが好きだった主人公の「僕」は、横浜の山の手につく美しい海岸線通りに絵を描いて再現しようとする。

【自分が読んだ学年】 小5

【お勧めの点】 お話が短く、難しい文章でもなく読みやすいと思います。劣等感による過ちを犯してしまった主人公に優しく寄り添ってくれる先生。このような主人公の気持ちが湧くことが一度はあると思います。だから感情移入して読めると思います。

（松村菜々子）

栗田房穂

『図解ディズニーの経営戦略早わかり』（中経出版）

所蔵なし

◆東京ディズニーリゾートを運営する上での秘訣や戦略が載っています。図で説明があるので分かりやすいです。

【自分が読んだ学年】高3

【お勧めの点】 普段は知ることができない東京ディズニーリゾートの裏側を知ることができます。純粋に楽しんでたディズニーリゾートは、様々な戦略があつてこそなのだと思います。

（小林楓佳）

伊坂幸太郎

『マリアビートル』（角川書店）

913.6/イ

◆とにかく運の悪い殺し屋レディバグ。彼は依頼人のマリアからブリーフケースを盗むだけの簡単な仕事を請け負い、東京発・京都行の超高速列車ゆかり号に乗り込む。

【自分が読んだ学年】高2

【お勧めの点】 映画化しているので、映画を観ても楽しめると思います。

（市川舞）

伊坂幸太郎

『オーデュボンの祈り』（新潮社）

913.6/イ

◆コンビニ強盗に失敗し逃走した伊藤は、気付くと見知らぬ島にいた。江戸以来、外界から遮断されている“萩島”には、妙な人間ばかりが住んでいた。嘘しか言わない男、合法的に殺人ができる男、未来が見えるカカシ、次の日カカシが殺され、未来が見通せるはずのカカシはなぜ自分の死を阻止できなかったのか。

【自分が読んだ学年】中3

【お勧めの点】 独特な世界観と個性豊かな登場人物たちが織り成す不思議なミステリ。伏線回収が気持ち良く、最後の展開に驚くこと間違いなし。

（松本陽菜）

伊坂幸太郎

『重力ピエロ』（新潮社）

913.6/イ

◆次々起こる連続放火事件、そして壁に絵を描くのが好きな弟“春”。主人公はその事件の犯人を突き止めることができるのか、弟と事件の関連性とは…？

【自分が読んだ学年】中3

【お勧めの点】 一文目が「二階から春が落ちてきた」とインパクト大な、とてもおもしろいミステリー小説です。物語の展開していくスピードがちょうど良く、犯人は誰なんだろうとワクワクしながら読むことができます。

（小林愛実）

石黒謙吾

『盲導犬クイールの一生』（文藝春秋）

369.275/イ

◆盲導犬に選ばれたラブラドル・レトリバーのクイール。まだ子犬であったクイールを手放したくない少女。そんな中でもパートナーとの信頼を深めていくクイールの物語です。

【自分が読んだ学年】中1

【お勧めの点】 お腹に翼のような模様がポイントでおっとりとしているかわいらしいクイールが、立派な盲導犬へ成長していく姿に勇気をもらえます。

（三嶋ささ）

磯淵猛

『基礎から学ぶ紅茶のすべて』（誠文堂新光社）

596. 7/I

◆紅茶の歴史と文化、茶葉の種類からそれぞれの持つ効果などなど、紅茶についてのあらゆる情報がたくさん書かれている、紅茶の魅力たっぷりの一冊です。

【お勧めの点】 ある程度の年齢になったら美味しい紅茶を飲んでみたいと思うかもしれません。そのときにこの1冊があれば、自分好みの紅茶葉をすぐに見つけられるだけでなく、品種によって違う入れ方、食べ物、歴史についても学べます。紅茶にご興味がある方は是非。

(堀川心愛)

井上ひさし

『四十一番の少年』（文藝春秋）

913. 8/I/11

◆孤児院で暮らす少年が主人公になった三作品。施設に過剰収容された子どもたちは、ヒエラルキーを作って暮らしている。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 著者の実体験を元にした小説。追い詰められた少年の話では、切なく悲しい文章の中に日本の懐かしい風景も盛り込まれている細やかな描写が印象的。

(萱野紗衣)

井上真偽

『ぎんなみ商店街の事件簿＜BROTHER編＞』（小学館）

913. 6/Ino

◆四兄弟がぎんなみ商店街での事件を調べていく少年探偵団のようなミステリー。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 この本に書かれているのは、兄弟からの視点から導いた結果にすぎない。SISTER編で姉妹の側面から見た事件も見ることをお勧めする。

(鈴木萌乃佳)

今村夏子

『星の子』（朝日新聞出版）

913. 6/I

◆生まれた頃から病弱だった娘を救うために「あやしい宗教」を信じ込んでしまう両親と、その両親や周りの環境に悩む中学3年生の女の子の話です。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 「宗教」と聞くと難しく聞こえるかもしれませんが、とても読みやすい文章でした。宗教に限らず、身近な人と自分の信じるものが違うことによって生じる悩みを抱える人は少なくないと思います。そのような状況になった時どう行動すればいいか、ヒントを与えてくれる本です。

(塩山咲綾香)

上橋菜穂子

『精霊の守り人』（偕成社）

913. 6/ウ

◆女用心棒バルサが、新ヨゴ皇国の第二皇子チャグムを助け、彼を守るために奮闘する物語です。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 それぞれの登場人物が人生に葛藤しながらも他者を想い、守りながら生きている姿に今の私たちの姿が重なり、強く共感できる本だと思います。

(田中希実)

内田洋子

『対岸のヴェネツィア』（集英社）

913. 6/ウ

◆ヴェネツィアの離島であるジュデッカ島に住まいを探し、そこで暮らす筆者自身の日々を綴ったエッセイ。

【自分が読んだ学年】中1

【お勧めの点】 筆者が見ている景色や出会う人々の描写が繊細で、自分も一緒にヴェネツィアを旅しているような気分になれる。

（岩本帆夏）

王城夕紀

『青の数学』（新潮社）

913. 6/オ

◆雪の日に出会った女子高生は、数学オリンピックを制した天才だった。その少女、京香凜（かまどめかりん）の問いに、栢山（かやま）は困惑する。ライバルと出会い、競う中で、栢山は香凜に対する答えを探す、ひたむきな想いを、身体に燃える熱を、数学へとぶつける少年少女たちを書く青春小説。

【自分が読んだ学年】中3

【お勧めの点】 まだ数学にそこまで触れていない中学生の方でも楽しめる内容だと思います。この小説の数学を巡る世界観に引き込まれます。読破後には、数学を解きたくなるかもしれません…。

（近藤朱莉）

小川糸

『ミ・ト・ン』（幻冬舎）

913. 6/オ

◆昔ながらの暮らしを守るラトビア共和国をモデルにした心温まる物語。この国では、気持ちを手袋の色や模様で伝えます。戦争の時代を生きた、主人公マリカの一生が美しく書かれています。

【自分が読んだ学年】中1

【お勧めの点】 大人のための童話のようなお話で、とても読みやすい一方で、戦争という大変な時代で前を向いて生きるマリカの強さに心打たれました。どんなに苦しくても笑顔でいようと思える一冊です。

（千住美咲）

恩田陸

『夜のピクニック』（新潮社）

913. 6/オ/(c)

◆高3の最後に夜通し80キロの道のりを歩く「歩行祭」というイベントを題材にした『夜のピクニック』。この本は「歩行祭」を通して今まで話したことのない人たちと話し、新しい出会いを得て成長していくお話。

【自分が読んだ学年】小5

【お勧めの点】 主人公が80キロの道を歩くだけのお話ではなく、いろいろな人間関係を垣間見ることができておもしろい。

（藤井映優）

加藤シゲアキ

『傘を持たない蟻たちは』（KADOKAWA）

913. 6/カ

◆日常で生きることに悩みを抱えた人々をテーマにした短編小説が6つ入っています。

【自分が読んだ学年】中2

【お勧めの点】 10分の「朝の読書」の時間で読みやすいです。短編小説なので、10分間で話が終わることがありました。それだけスラスラと夢中になれる内容です。アイドルでもあり俳優でもあり作家でもある、そんな多才でイケメンな作者の作品を是非読んでみてください。

（大橋梨乃）

川上弘美
『七夜物語』(朝日新聞出版)

913.6/カ/1

◆母親と二人暮らしのさよという少女が図書館で「七夜物語」という本に出会い、それをきっかけとして夜の世界へ迷い込んで行く。若かりしころの両親やグリクレルという大きなネズミに出会う冒険物語。

【自分が読んだ学年】中1

【お勧めの点】 幻想的な世界観の物語で、読み終わった後、切なさと共に優しい気持ちになれる。自分自身や周囲との関係を見つめなおすきっかけになる作品。

(金吉沙弥子)

川北義則
『「20代」でやっておきたいこと』(三笠書房)

159.7/カ

◆二十歳になったとき、私は一体どんな大人になっているのか。あと数年で二十歳になる私たちが20代でやっておくべきことが、たくさん書いてあります。

【自分が読んだ学年】高3

【お勧めの点】 20代でやっておくべきことを10代で読むと人生が豊かになると思います。でも正直そんなことは気にせずに自分らしく生きるとHappyLifeをおくれます。中学生にもおすすめ！

(山崎孝葉)

朽葉つむぎ著；真田まこと原作
『霧雨が降る森』(KADOKAWA)

所蔵なし

◆大人気フリーホラーゲーム「霧雨の降る森」のゲームエンディング後のオリジナルストーリー展開を収録。

【自分が読んだ学年】高1

【お勧めの点】 霧雨の降る森のゲームエンディング後のアフターストーリーが見られて面白いです。

(岩本奈嗣実)

黒柳徹子
『窓ぎわのトットちゃん』(講談社)

914.6/K

◆トモエ学園の個性を伸ばす独自の教育と、そこで学ぶ子どもたちをいきいきと描いた感動のお話です。

【自分が読んだ学年】中2

【お勧めの点】 トモエ学園が子どものありのまま受け入れてくれるところや、子どもの興味や個性を大事にするところが魅力的です。

(外川愛)

コムドットやまと
『聖域』(KADOKAWA)

所蔵なし

◆Youtuberコムドットやまとによるエッセイ。これまでに彼がどのような考えで生きてきたのかを彼自身の言葉で書かれている。

【自分が読んだ学年】高3

【お勧めの点】 思春期真っ最中の中学生で自分自身を大事にし、どんなマインドで、どれだけ行動に移せるのか。勇気ややる気を与えてくれる本。

(堀寧音)

小森宏美

『エストニアを知るための59章』(明石書店)

所蔵なし

◆エストニアの地理や言語などの基本情報から歴史、政治、文化などを各章で紹介している。

【自分が読んだ学年】中3

【お勧めの点】 入門書としても分かりやすい上に、かなりの情報が書かれているためエストニアに対する理解が一気に深まる。章ごとに読めるので、興味のある所から読めるのが良い所である。他の国や地域もこのシリーズがオススメである。

(近藤彩星)

齋藤孝

『齋藤孝のイッキによめる!名作選：中学生』(講談社)908.3/S

◆筆者が推奨する古今の名作短編を綴った一冊。

【自分が読んだ学年】中1

【お勧めの点】 本当に一気に読めるものばかりで、現代的なものから、やや古典的なものまであるので、朝の10分間読書にぴったりです。

(向田奈帆)

櫻いいよ

『交換ウソ日記』(スターツ出版)

所蔵無し

◆お互いが交換日記をしている相手が思っていた相手ではなかったけれど、お互いを知っていくうちに好きになっていくラブストーリー。

【自分が読んだ学年】中1

【お勧めの点】 互いに知らない2人がひかれ合っていくストーリーの続きが気になってどんどん読み進めて行ってしまうところ。

(中村亜莉沙)

櫻井千姫

『天国までの49日間』(スターツ出版)

913.6/サ

◆クラスメイトからのいじめを苦に飛び降り自殺を図る。死んだ直後に目覚めると、天使が現れ、天国に行くか地獄に行くか49日で決めるように言い渡され…。

【自分が読んだ学年】中2

【お勧めの点】 亡くなってから気づく気持ちがあるのは辛いことだと、この本を読むと毎日悔いのないように生きたいと強く思えます。

(山根夕奈)

佐野徹夜

『君は月夜に光り輝く』(KADOKAWA)

913.6/サ

◆姉の死からどこか投げやりに生きるようになってしまった主人公と、不治の難病に侵された同級生の女の子のお話。

【自分が読んだ学年】中3

【お勧めの点】 立場が反対の2人が関わることで広がっていく世界に引き込まれます。「生」と「死」を感じられる本です。

(日下友那)

汐見夏衛

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』（スターツ出版） 913.6/シ

◆ある日突然、戦時中の日本にタイムスリップした女子中学生がそこで青年と出会い、恋に落ちる。

【お勧めの点】 戦争の辛さだけではなく、恋愛の楽しさもわかるところ。

（照本真央）

◆お母さんとけんかして家を飛び出し、一夜を防空壕で過ごした現代の中学2年生が、1945年の日本にタイムスリップして特攻隊員に出会う話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 特攻隊の彰と出会い、主人公が色々な感情に揺れるところ。

（中村初月）

◆現代にいる女の子が戦争の時代に行き、現代のありがたみを知るお話。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 今の時代をありがたいと思う。

（石河瑠衣）

◆ある日突然戦時中にタイムスリップした「百合」という女子中学生が、“特攻隊員”である彰と出会い、恋に落ちる話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 戦時中の残酷さや異常な空気感などが伝わり、改めて今の幸せを実感できる一冊です。映画化され話題になりましたが、小説にしかない描写や繊細さがあるのでぜひ読んでいただきたいです。

（河野亜季子）

汐見夏衛

『あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。』（スターツ出版） 913.6/シ/2

◆特攻隊の青年・佐久間彰の生まれ変わりである中学2年の転校生の男子・宮原涼が1945年から現代に帰還した加納百合と出会い、お互いに惹かれながらも、百合が彰に対する思いを待ち続けていることへの葛藤を乗り越えようとする姿が描かれる。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 改めて戦争の悲惨さを思い知らされた。主人公が私たちと変わらない女子中学生であることから、共感できる場所が多く、ストーリーが理解しやすい!!

（吉本遥香）

重松清

『ポニーテール』（新潮社）

913.6/シ

◆再婚して姉妹になった2人の女の子が戸惑いながらも家族になっていく話。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 繊細な感情の移り変わりが読んでいてあきないです。

（伊藤美月）

重松清

『きみの友だち』（新潮社）

913.6/シ

◆交通事故で片足が不自由になってしまった少女。生まれつき腎臓が悪く入院を繰り返している少女。2人の寄り添うような信じあう友だちを中心に、小学校高学年から中学校あたりの複雑で理不尽な逃げ場の無い人間関係を10話の連作短編にしています。本当の友だちを考えさせてくれる。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 「友だち」とは何かを考えるきっかけを与えてくれる。

（寒川雅）

◆事故にあって足に障害が残った女の子の話。

【お勧めの点】 友達がきっかけで起きた事故で、心にも傷が残った女の子の複雑な心境を、自分の人間関係などと照らし合わせて読むことができます。

(中井彩夏)

◆体が不自由な少女と腎臓の弱い少女が出会い、本当の友達とは何かを考えさせてくれる。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 人間関係について考えさせられる。

(河原未和)

鈴木るりか

『14歳、明日の時間割』(小学館)

913.6/S

◆現在、青春時代のまっただ中にいる方はもちろん、学生時代が遠い昔という大人や遙か昔という熟年世代まで共感できる、笑える小説です。

【お勧めの点】 クールだけど優しくて、ユーモアが溢れている点。

(香川みのり)

住野よる

『また同じ夢を見ていた』(双葉社)

913.6/Sumi

◆主人公の菜ノ花が「人生とは何か」について、作中で出会う3人の人物との関わりを通して考えていく話。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 非現実感と、どこか懐かしいような感覚を味わせる作品です。読みながら色々な情景を想像して読めるので楽しいです。

(岡本梨瑚)

住野よる

『君の膵臓をたべたい』(双葉社)

913.6/ス

◆ある日高校生の僕は病院で一冊の本を拾う。タイトルは「共病文庫」。それはクラスメイトである山内桜良が綴った秘密の日記だった。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 読んだ後、このタイトルの意味が分かる。

(梶木彩茜)

瀬尾まいこ

『そして、バトンは渡された』(文藝春秋)

913.6/セ

◆血の繋がらない親のもとを転々としてきた森宮優子。ある日、継母の梨花が愛娘を残して姿を消す。優子のもとに届いた一通の手紙。それをきっかけに嘘や秘密がそれぞれの人生を交差させるように導いていく。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 血が繋がらなくても、家族になれると教えてくれる、家族愛を題材とした物語。主人公がずっと幸せである点。

(野澤愛加)

◆幼い頃に母親を亡くし、父とも海外赴任を機に別れ、継母と過ごすことを選んだ優子。その後も大人の都合に振り回され、高校生の今は二十歳しか離れていない“父”と暮らす。血の繋がらない親の間をリレーされながらも、出逢う家族皆に愛情をいっぱい注がれてきた主人公が結婚するとき、本当の幸せに気付く。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 生活がマンネリ化してきて、日々を楽しみを見いだせないときに読むと、気付いていなかった身近な幸せに気付くことができます。映画化もされており、温かい気持ちになります！

(土田萌香)

◆血の繋がらない親の元で暮らしている高校生の主人公のもとに手紙が届く。それをきっかけに、今まで主人公に隠されていた秘密や嘘が明らかになっていく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 主人公の気持ちの変化だけでなく、周りの人の感情や物語もたくさん書かれており、最後に一人一人の思いや秘密が繋がっていった時に感動する点。

(稲田美優)

背筋

『近畿地方のある場所について』 (KADOKAWA)

913. 6/Sesu

◆主人公である雑誌記者の手記から始まる。友人が失踪してしまったため、情報提供を募っていた。失踪してしまった友人は「近畿地方のある場所について」というタイトルで作品をまとめている最中だった。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 絶対にフィクションとは言い切れない話の数々が読んでいくうちに、更に恐怖を感じさせる不気味な本です。

(近藤真絢)

宗田理作

『ぼくらの七日間戦争』 (ポプラ社)

913. 6/ソ/(c)

◆中学1年生全員で廃工場に立てこもり、大人と戦う。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 子どもたちが悪い大人を懲らしめる痛快なところ。

(木村さくら)

太宰治

『走れメロス』 (新潮社)

913. 6/ダ

◆王に歯向かった罪で、メロスは処刑されることになるが、妹の結婚式のために3日間の猶予がほしいと述べ、親友のセリヌテンティウスを身代わりにする話です。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 人間の根底にある心理を巧みに描きながら、信頼とは何かを問う物語。

(深見朱里)

◆自分が処刑されることになることと承知の上で、友情を守ったメロスが、人の心を信じられない王に信頼することの尊さを悟らせる話。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 読みやすい上に、相手を信じ抜く大切さや、その思いを裏切らずに応え、約束を守り抜くということの大切さを学ぶことができる。友情の大切さも学べる点。

(池田彩乃)

太刀川瑛弼

『デザインと革新：未来をつくる50の思考』（パイインターナショナル） 所蔵無し

◆デザインとイノベーションと人生にとって大切なことが学べる、人生の近道ができるような本。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】人間の根底にある心理を巧みに描きながら、信頼とは何かを問う物語。

（深見朱里）

知念実希人

『仮面病棟』（実業之日本社）

913.6/チ

◆ごく普通の療養型病院に、突然ピエロの仮面をつけた男が侵入し、病院を占拠する。しかし、これはただの立てこもり事件ではなかった。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】本嫌いな私でも1日で読むことができた。ずっとドキドキハラハラできて、結末にも満足できた。

（有吉優奈）

知念実希人

『天久鷹央の推理カルテ』（新潮社）

913.6/チ/1-5

◆日常に潜む驚くべき“病”と事件の繋がりを、頭脳明晰、博覧強記の天才女医・天久鷹央が解き明かす医療ミステリー。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】身近なものから聞いたことのないもの、更には病原菌によるものだけでなく、アレルギーや精神疾患まで、様々な病気が登場し事件に関わっています。それを中心に事件を紐解く最後は驚きと爽快感に飲まれます！4年前に映画化した「仮面病棟」の作家さんです。ぜひ他の作品も読んでみてください。

（岩崎杏梨）

知念実希人

『屋上のテロリスト』（光文社）

913.6/チ

◆戦後、東西に分裂した日本で、財閥の娘が死にたいと願う少年にバイトを持ちかける所からスタートする。核爆弾を東の軍部に渡したり、バイオテロを企てたり、やることがハチャメチャ。彼女の真意とは。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】現実ではありえない話ばかりなので、物語に入り込めたらとても面白いと思う。読んでいて映像が頭にどんどん描かれていく感じがおすすめの点。

（安藤真帆）

辻村深月

『ツナグ』（新潮社）

913.6/ツ

◆一生に一度だけ、死者と再会を叶えてくれる「使者」。直木賞作家の感動長編。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】生と死の違いを哲学的に考えながら読むことができ、人生がより豊かになれたような気がした。

（宮西鷹佑）

辻村深月

『かがみの孤城』（ポプラ社）

913.6/ツ

◆不登校の中学1年生・ところが突然光りだした部屋の鏡を潜り抜けた先にあった「孤城」へ行き、同じような境遇の7人の中学生と出会うことで始まる物語。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】年代が中学生であるため、共感できる部分が多い。

（柴田絢香）

◆不登校の中学一年生ころ。ある日突然部屋の鏡が光だし、その鏡を抜けると「孤城」が広がっていた。その孤城で出会い、ここを含めた7人の中学生と「オオカミ様」の物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】学校に行きづらさを抱える人たちには、是非読んで頂きたい一冊です。辻村深月さんならではのミステリアスな要素も含みつつ、感動と謎解きの楽しさ、両方が味わえます。

（鶏内菜々子）

◆学校に居場所がなく、部屋に閉じこもっていた主人公は、ある日部屋の鏡の中に吸い込まれ、別世界に迷い込む。そこには他に6人の子どもがいた。狼の仮面を被った少女が主人公たちに告げたことは…。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】とても有名で、映画化もされている本です。ファンタジー要素もあって、時間を忘れてしまうほど読書にのめり込んでしまいます。一度は読んでみて下さい！！

（漆崎璃子）

◆学校に行けなくなったところは、光る鏡の向こうにある城にオオカミのお面をつけた少女とところと似た境遇の6人に会う。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】登場人物の抱える問題は現実的で、皆さんが言葉にできない苦しみを持っていれば救われるかもしれません。親になったら見方が変わるところもオススメです。

（吉田早織）

坪田信貴

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話』（KADOKAWA）376.8/ツ

◆遊んでばかりの勉強しない女子高生。心配した母親が学習塾に通わせると、彼女の学力は小学4年生レベルと判断される。しかし彼女は第一志望としてトップレベルの大学を宣言。塾講師の男性は巧みな指導で彼女のやる気を引き出し、本気にさせていく。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】大学受験のやる気をあげるきっかけとなった。勉強をがんばるモチベーションになった。

（山本怜奈）

津村記久子

『まともな家の子供はいない』（筑摩書房）

913.6/ツ

◆「父親がいる家にはいたくない」塾の宿題は重く、母親はうざく、妹はテキトー。世の中にまともな家はあるか。怒れる中学3年生のひと夏の物語。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】似たような年で似たような悩みを持つ人がいるかもしれません。何の変哲もない日常をユーモラスな文章で書いた作品です。読後、何の変哲もない生活が少し愛おしくなる気がします。

（河野優菜）

梨木果歩

『西の魔女が死んだ』(新潮社)

913.6/ナ

◆不登校のまいが母方の祖母の家に預けられることになり、田舎暮らしの中で大切なことを学びとっていく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】自然の描写がとても幻想的で、おばあちゃんの温かみが感じられるところ。

(久保田真央)

◆中学生になったばかりのまいは、何となく学校に行きたくない気持ちを抱えていた。そんな時、母から提案で祖母の家に居候することになり、そこで祖母がまいに教えたこととは…。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】自分の存在や学校の人間関係について頭を悩ませてしまう時期にこの本を読むと、少し気持ちが楽になります。最後にまいが祖母から得たもの、その後のまいの行動にも目が離せません。

(市川万由奈)

◆主人公のまいの大好きなおばあちゃんは、本物の魔女。学校に行けなくなっていたまいはおばあちゃん(西の魔女)のもとで過ごす。その日々の中でまいは、おばあちゃんから多くの人生の教訓を教えてもらう。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】自然あふれる環境でのまいの生活の様子が普通の私たちの生活とはかなり違っており、現実を忘れて楽しめる。また、おばあちゃんの言葉には説得力があり、周囲の環境に惑わされずに生きていいのだと思うことができる。

(児島彩那)

夏目漱石

『坊っちゃん』(講談社)

913.6/ナ

◆東京生まれの主人公が、四国の学校に赴任し、個性豊かな教師や生徒と出会って、そこでのやりとりや事件などが坊ちゃん目線の痛快な語り口で書かれています。

【自分が読んだ学年】 中1・中2

【お勧めの点】登場人物は人間味のある個性的な人ばかりで、坊ちゃんが教師達につけるユニークなあだ名に思わず共感してしまう。

(大西琴子)

七沢ゆきの

『江戸の花魁と入れ替わったので、花街の頂点を目指してみる』(KADOKAWA)

所蔵なし

◆歴史が好きな主人公が現代でキャバ嬢として生活していたある日、目が覚めると江戸時代の花魁になっていた。現代に戻れない覚悟をした主人公がNo.1の花魁を目指す物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】主人公が現代で得た知識を使って色々な問題に立ち向かっていくところがおもしろい。話し言葉がたくさんあるから読みやすい。

(中松美海)

七月隆文

『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』(宝島社) 所蔵なし

◆京都の美大生・南山高寿は、大学へいく電車の中で福寿愛美に出会い、一瞬で恋をする。やがて2人は付き合い始めるが、愛美は大きな秘密を抱えていた。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】ネタバレになるので詳しくは言えませんが、ある事情で2人は長く付き合うことができません。そのためこの本を読んだ後、大切な人と過ごす時間を大切にしようと思えました。そんな話が好きな人には合うと思います。

(濱本果穂)

七月隆文

『ケーキ王子の名推理(スペシャリテ)』(新潮社) 913.6/ナ

◆ケーキが大好きな女の子とパティシエを目指す男の子の恋物語です。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】恋模様にキュンキュンするだけでなく、たくさんのお菓子が出てきて楽しめます。

(山本彩哉子)

西加奈子

『くもをさがす』(河出書房新社) 916/N

◆居住先のカナダで乳ガンの宣告を受け、抗がん剤治療や手術を受けた自身の体験を書いたものです。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】私は「多様な価値観との出会いを通じて心揺れながら自分の価値観を探していく」のところに感銘を受けました。

(藤原奈々)

◆コロナ禍の最中、カナダでガンを宣告された著者が、ガン発覚から寛解までの8ヶ月間を克明に描いたノンフィクション作品。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】作者はガンと診断され、両乳房を切除したが、ここで作者は絶望に打ちひしがれるわけではなく、自分と向き合い、病氣と向き合い、そして“死”を身近に感じたことで見えた自分自身の在り方を前向きにとらえています。日々思い通りにいかないことが多く辛く感じる人に読んでもらいたい一冊です。

(前田真緒)

西川司

『向日葵のかっちゃん』(講談社) 所蔵なし

◆「わからないことは、恥ずかしいことじゃない」時計も漢字も読めず、支援学級に通うかっちゃんの毎日を一変させたのは熱血漢すぎる先生だった。みじめな毎日に負けそうになっていたボクに奇跡を起こした出会いと成長の物語。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】この小説は筆者の実体験に基づいて書かれたものであるもので、方言なども含まれており、よりリアルに読み手に伝わってくる。同じ目線のかっちゃんに寄り添い、一緒に学ぼうとする先生との出会いによって、かっちゃんがみるみる成長していく姿がとても印象的だった。

(赤松奏音)

博学こだわり倶楽部**『関西人の常識VS関東人の常識』（河出書房新社）**

361.42/ハ

◆「関西」と「関東」では、食、言葉、風習など、日々の暮らしの中にある西と東の「常識」の違いを紹介。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 関西・関東、それぞれの文化の違いに驚きます。

(松村舞子)

はやみねかおる**『都会のトム&ソーヤ』（講談社）**

913.8/H/1-21

◆学校始まって以来の秀才で、巨大な竜王グループの後継者である創也は、廃ビルの「砦」を根城に、究極のゲーム作りを目指している。塾通いに追われる普通の同級生・内人が抜群のサバイバル力を使って砦への招待を攻略したことから力を合わせて夢を追いかけることに。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 とても夢のある内容で、様々なアクシデントを知恵で切り抜けるのは小中学生が一度は憧れるシーン。なかなか読み飽きない面白さで、何度も読んでしまいます。

(杉村淳香)

◆究極のゲームを作ることを目標とする高校生2人が、立場や家柄の差を超えて互いの弱点を助け合って成長していく物語。

【自分が読んだ学年】 小4

【お勧めの点】 有名な本のシリーズなので図書館などで手軽に読むことができる点。ミステリー要素も含むので頭を使って読むことができる。

(津高知優)

東野圭吾**『マスカレードホテル』（集英社）**

913.6/ヒ/(b)

◆あるホテルが連続殺人事件の新たな犯行現場として予告される。これを受け潜入捜査を敢行するエリート刑事の男とその教育係を務めることになった従業員の女性。2人は互いに衝突を繰り返しながらも次第に事件の核心へと迫っていく。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 映画化されているので、読みやすい。謎解きが好きな方にはおすすめ。

(勝浦李咲)

東野圭吾**『白夜行』（集英社）**

913.6/ヒ

◆初恋の少女を救うために父親を殺した少年の話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 まさかのどんでん返しや伏線回収など、ドキドキハラハラを味わえます。

(鈴木琴乃)

東野圭吾

『容疑者Xの献身』(文藝春秋)

913.6/ヒ

◆天才数学者・石神は愛する者のために完全なる犯罪を企てる。しかし、そこに現れたのは同じく天才にして親友の物理学者・湯川学であった。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 終わりがただのハッピーエンドではない。気持ち悪くておもしろい。

(辰馬圭威)

◆天才数学者vs天才物理学者。とある殺人事件の予想外の結末。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 直木賞受賞作品。東野圭吾の代表作の一つで、ミステリーに興味がある人は絶対に読むべき作品。ミステリー初心者にもおすすめ。

(松尾仁奈)

東野圭吾

『恋のゴンドラ』(実業之日本社)

913.6/ヒ

◆都内で働く公太は、合コンで知り合った桃実とスノボ旅行へ。ところがゴンドラに同乗してきた女性グループの一人はなんと婚約者だった。ゴーグルとマスクで顔を隠し、山頂までバレずに済むのか。やがて真冬のゲレンデを舞台に男女を巻き込み、愛憎劇が発展していく。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 短編集ですが、読んでいくうちにそれらがつながっていることに気づくので、読んでいて飽きません。私は本を読むのがどちらかというと苦手なタイプなのですが、この本は、ストーリーの展開も早く、難しくなくて読みやすいので、ぜひ朝の読書用として一度手にとってみてください。

(徳久花連)

東野圭吾

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』(角川書店)

913.6/ヒ

◆過去と現在が繋がる不思議な雑貨店を舞台に、現実には背を向けて生きてきた青年と悩みを請け負う雑貨店長の時空を超えた交流を描く。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 不思議な雑貨店に迷いこんだ主人公たちが、過去から届く悩み相談を受けて青年たちなりの答えを出してそれに答えていくのが面白いです。

(森田梨紗)

百田尚樹

『風の中のマリア』(講談社)

913.6/ヒ

◆晩夏に生まれたオオスズメバチのマリアは姉から育てられて羽化した現在、自らの育った帝国で姉妹や女王蜂のため、恋もせず必死に戦い続ける。他の生物との関わりの中で、生物は子孫を残すことが目的であり、子孫を残さず帝国のために働く自らは、変わった存在であるということを聞かされ、それが自らの運命だと気にすることはなかった。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 蜂の中にも様々な種類の蜂がいる。小説を楽しむ且つ、様々な蜂の生態についても知ることができる。

(江田璃々子)

日向夏

『薬屋のひとりごと』（主婦の友社）

913. 6/ヒ/1

◆架空の中華風帝国・荔（リー）を舞台に宮廷で起こる事件を下女であり薬師でもある主人公・猫猫（マオマオ）が医学と薬の知識を駆使して美形宦官・壬氏（ジンシ）と共に難事件を解決する。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】中華歴史ミステリー小説です。各ストーリーに散りばめられている伏線の数々や、猫猫と壬氏のデコボココンビのやり取りが話の良いアクセントになっていて面白いです。コミカライズ化やアニメ化もされている人気作品です。

（藤岡芽依）

平山夢明

『ダイナー』（ポプラ社）

913. 6/ヒ

◆主人公が働き始めたレストランは、殺し屋専用のレストランで、店内でもしょっちゅう客同士の争いがうまれています。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】異世界が好きな人におすすめの本です。映画化もされているので、映画との違いを探するという読み方でも楽しめます。

（河合柚）

藤まる

『時給三〇〇円の死神』（双葉社）

913. 6/フ

◆ある日、高校生の佐倉真司は同級生の花森雪希から「死神」のアルバイトに誘われる。「死神」の仕事とは、成仏できずにこの世に残る「死者」の無念を晴らし、あの世へと見送ることらしい。あまりに現実離れた話に佐倉は不信感を抱くが…？温かな涙が止まらない、ヒューマンストーリー。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】何と言っても普段本を読まない私が手に取って読み始めた途端、すごいスピードで読み終わり、その後も2回ほど繰り返してしまうくらい良いお話!!佐倉と花森の掛け合いが面白かったり、2人が出会う死者達の切ない未練の内容であったり…、笑いあり涙ありで何回読んでも飽きることが無いところがおすすめです。

（眞鍋佳凜）

藤原てい

『流れる星は生きている』（中央公論社）

916/F

◆ソ連参戦により、夫と離れてしまう一人の女性が、3人の子どもと一緒に敗戦下を耐え抜く壮絶なノンフィクション。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】とても暗くて、自分も暗くなってしまう話ではあるが、自分の今置かれている状況や環境を見直すきっかけになるような作品。

（保田早智）

ブレイディみかこ

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（新潮社） 376. 333/ブ

◆市内1番のカトリックの小学校に通っていた筆者の息子が、元底辺中学校に入学し、そこで起こる人種差別、貧富の差、多様性などに関する様々な問題に向き合っていく。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】著者の息子は、学校生活を通して大人でも悩むような難しい問題に何度も直面しますが、あまり重い雰囲気の話でもないので、読みやすいと思います。

（西山満花）

前川ほまれ

『シークレット・ペイン』(ポプラ社)

所蔵なし

◆医療刑務所へ期間限定の配属となった精神科医の話。そこで医師を志望するきっかけを作った男と鉄格子越しに再会した。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】刑務所にいる受刑者に民間と同等の医療行為を受けさせていいのかという主人公の葛藤がとても伝わってくる。自分はその問題についてどう思うのかを考えながら読むのも良いと思います。

(酒匂りの)

町田そのこ

『ぎょらん』(新潮社)

913. 6/マ

◆死者が最後に遺す赤い珠。それがもたらすのは、救いか、それとも苦しみか。人が死ぬ瞬間に生み出す珠「ぎょらん」。それを噛み潰すと、死者の最後の願いが見えるという。妖しくも切ない連作奇譚。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】亡くなった人の自分への思いを知りたいと思ったことがあると思います。この物語は、全ての登場人物が友人や家族の死を経験していて、それでも強く生きようとしているところに励まされます。

(牧田愛可)

松原始

『カラスの教科書』(講談社)

488. 99/マ

◆カラスの生態や豆知識がたくさん載っていてとても面白い。

【自分が読んだ学年】 小4

【お勧めの点】黒くてなんか怖いカラスだけど、この本を読めば、カラスを可愛いと思えること間違いなし!!

(藤岡望音)

三秋縊

『いたいのいたいの、とんでゆけ』(KADOKAWA)

所蔵なし

◆“先送り”することができる少女を轢いてしまった僕は十日間の猶予で彼女の復讐を手伝う。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】陰鬱としたストーリーだけど、どこまでも純愛な物語。

(濱吉柚々子)

水野敬也

『ガネーシャと貧乏神 夢をかなえるゾウ』(飛鳥新社)

913. 6/ミ/2

◆売れずに悩んでいるお笑い芸人のもとに、ガネーシャと名乗る関西弁を喋るゾウの神様や金無幸子(かねなしさちこ)という貧乏神が現れ、彼の人生が変わっていくストーリー。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】生きる上で何が大切なのかを教えてくれる物語のシリーズで、ベストセラーになっています。クスッと笑えるところも多く、とても楽しく読めます。

(片山まい)

湊かなえ
『告白』(双葉社)

913.6/ミ/(c)

◆物語は教師の森口先生の告白から始まります。彼女は自身のクラスで、娘が何者かに殺害された事件の真相を追究し告白します。そして、直哉・修哉・渡辺母子の視点からそれぞれの告白が語られます。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】作中の殺人事件について、読者である私たちが自由に頭を巡らせ、解釈できる点。

(伊藤愛衣)

◆我が子を校内で亡くした女性教師が終業式のHRで犯人である少年を指し示す。ひとつの事件をモノログ形式で「級友」「犯人」「犯人の家族」から、それぞれ語らせ真相に迫る。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】あらゆる視点、観点から語られる事件の真相の顛末が見どころです。

(山中賀怜羅)

◆女性教師が、担任を受け持つクラスの生徒の中に娘を殺した犯人がいると告白する。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】衝撃のラストが面白い。

(福永ゆな)

湊かなえ
『望郷』(文藝春秋)

913.6/ミ

◆島に住む人の人生が短編で書かれている。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】短編だから読みやすい。

(志水もも菜)

村上春樹
『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』(文藝春秋) 913.6/ム

◆大学時代、一方的に親友4人に絶縁を宣告された多崎つくると。過去を乗り越えるため、36歳になった彼は絶縁の理由を求め、元親友たちを訪れることを決める。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】物語にははっきりとした結末がない点。その人の歩んできた人生の経験によって様々な解釈ができる。

(島田幸)

木宮条太郎
『水族館ガール』(実業之日本社)

913.6/モ

◆市役所勤務だった主人公が、ある日突然、水族館に配属されてしまうお話。

【自分が読んだ学年】 小6

【お勧めの点】主人公が明るく前向きに仕事に取り組むところです。どんなに辛い状況でもひたむきに頑張るのでそんな姿に元気をもらえます。この本がきっかけで水族館の仕事に興味をもったくらい、仕事内容も細かく書いてあるのでおすすめです！

(中村美月)

望月麻衣

『京都寺町三条のホームズ』（双葉社）

913.6/モ

◆女子高生の真城葵はひよんなことから、その店主の息子の家頭清貴と知り合い、共に奇妙な依頼を受けるミステリー。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】アニメ化もされていて、ミステリーで読みやすく、最新巻まで楽しめる1冊だと思います！

(渋谷葵)

桃戸ハル

『5分後に意外な結末』（学研プラス）

913.88/G/1

◆各話5分程で読めるストーリーが「意外な結末」をテーマに、笑い・恐怖・感動それぞれの感情と、SF・ファンタジー・恋愛と様々なジャンルで語られる内容が豊富な一冊。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】5分程度の時間ですぐ読めて、ラストがおもしろいところ。

(能勢利奈)

森絵都

『カラフル』（文藝春秋）

913.8/モ/(b)

◆前世で大きな過ちを犯した「ぼく」の魂は記憶を失い、輪廻のサイクルから外されていた。ところが、抽選に当たったことで、再挑戦のチャンスを得る。自殺を図った少年「小林真」の体を借り、前世の罪を思い出さなければならない。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】人間関係に悩んでいる方、様々な観点から物事を見ることができるようになりたい方におすすめです。上記以外の人でも読んでいて楽しめる内容だと思います。人間には良い所も悪い所もありますが、他にもたくさんの面を持っていると思います。この本を読むことで、視野を広く持つことができ、人間関係を良くするきっかけにもなると思います。

(川井智惺)

◆前世の罪により輪廻のサイクルから外されたぼくの魂が天使業界の抽選に当たり、再挑戦のチャンスを得た。自殺を図った少年、真の体にホームステイし、自分の罪を思い出さなければならないのだ。真として過ごすうち、僕は人の欠点や美点が見えてくるようになる。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】死んだ僕が自殺を図った少年の体で新生活を送るという、ファンタジー感が魅力の作品。中学生の閉塞感がユーモアを交えて爽やかに描かれています。読んだあとには、じんわりとあたたかな気持ちになりました。

(忽那美央)

◆生前の罪で輪廻のサイクルから外されたボク。そして新たな生活が始まった。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】主人公のボクに共感できる点。

(脇坂凜空)

◆生前の罪により輪廻のサイクルから外されたぼくの魂が天使業界の抽選に当たり、再挑戦のチャンスを得た。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】内容に入り込みやすく読みやすいです。

(秋田希美)

◆一度死んだ主人公がもう一度生きる話。

【お勧めの点】生きることについて考えさせられる。

(藤堂真央)

森見登美彦

『新釈走れメロス』(祥伝社)

913.6/モ

◆『芽野史郎は激怒した』京都の阿保学生・芽野は大学内の暴君である図書館警察の長官に反抗してしまう。世にも破廉恥な桃色ブリーフの刑を全力で回避するために京都を疾走する芽野、普通に見捨てられる親友・芹名。果たして彼らの行く末は…。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】中学の教科書にも掲載されている『走れメロス』を森見登美彦がおふざけ9割のおもしろ小説に書き換えられてしまいました。他にも高校の教科書に掲載されている『山月記』のオマージュも載っています。予習にはなりませんが、面白いので堅い文体に慣れるにはぴっくりです。

(岡上友香莉)

◆「走れメロス」「山月記」といった<近代文学の傑作四篇>が全く違う魅力をまとい、現代京都で生まれ変わる！

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】本家の近代小説をオマージュしてつくられており、この本だけでも十分に面白いですが、本家も読むことで面白さは倍増するはずですよ。これを機に、近代小説にも興味を持ってみませんか。

(石井真衣)

柳田理科雄

『ジュニア空想科学読本』(KADOKAWA)

404/ヤ/1

◆アニメや漫画・映画の世界を科学的に検証する。

【自分が読んだ学年】 小6

【お勧めの点】身近なアニメや漫画に触れていて楽しめる。

(桑田真那)

◆架空の世界の出来事であるアニメ・マンガ・ゲームの内容を現実の科学で検証するという「子どもの夢を壊す本」。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】長く愛されているキャラクターを科学的な切り口で紹介して新たな発見をもたらしてくれます。日常生活の中で、ほっこりする機会が増えます。

(杉本晴香)

吉野源三郎

『君たちはどう生きるか』(マガジンハウス)

159.5/Y

◆太平洋戦争末期、母を亡くし父と疎開したものの、新生活を受け入れられずにいた少年の人生についての話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】コペル君が聡明です。自分もコペル君のように、これから直面するであろう問題に対して真っすぐに向き合っていけたらいいと思えた。

(菅千夏)

米澤穂信

『本と鍵の季節』(集英社)

913.6/Yone

◆学校の図書館で起こる様々なミステリー。主人公である図書委員の2人が身の回りで起こる事件を読み解いていく。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】ストーリーが学生の中で繰り広げられるのでイメージしやすく、中学生でも読みやすい。

(中川栖瑛)

和田裕美
『タカラモノ』(双葉社)

913. 6/ワ

◆女子向けの本です。ママからの教えを胸に刻みながら主人公が成長していく物語。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】女性目線のお話なので共感できるところが多くて、読みやすく面白い本です。

(松見香穂)

アンネ・フランク著；深町真理子訳
『アンネの日記』(文芸春秋)

949. 35/フ

◆第二次世界大戦中、オランダの隠れ家での暮らしぶりを赤裸々に語った中学生世代の日記です。自分たちと同じ年の子が自分に宛てた日記を本にしたものです。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】アンネが迫害を受けながら生活していく中で、厳しい環境での人生を嘆き、やがてそれを受け入れ、そしてユダヤ人としての人生を肯定していく成長の過程を見ることができ、様々な人の考え方を考えることができます。

(田村優衣)

◆第二次世界大戦中、オランダの隠れ家での暮らしぶりを赤裸々に語った中学生の日記。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】私たちからは想像できないような戦争中の様子や、いつ捕まって殺されるかわからないという恐怖のなかで生きる様子が書かれていて、とても勉強になります。

(岡本唯)

ダン・ブラウン著；越前敏弥訳
『ダ・ヴィンチ・コード』(角川書店)

933. 7/B/1

◆物語の舞台は、パリのルーブル美術館。ある夜ルーブル美術館館長のジャック・リニエールが殺された。彼はイエス・キリストの『聖杯』のありかを知る唯一の人だった。リニエールは生前、孫娘に『聖杯』の真実をキー・ストーンの中に入れ、それを託したが、キー・ストーンを開くには複雑な暗号を解かなければならなかった。暗号解読官のソフィーはパリに滞在していたラングドン教授を巻き込み、リニエールの死の真相を突き止めようとしていた。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】様々な謎が次々と同時に、次々と明らかになっていく展開に引き込まれます。

(祖父江萌夏)

アガサ・クリスティー著；清水俊二訳
『そして誰もいなくなった』(早川書房)

933. 7/ク

◆その孤島に招き寄せられたのは、互いに面識のない、職業や年齢も様々な10人の男女だった。だが、招待主の姿は島にはなく、やがて夕食の席上、彼らの過去の犯罪を暴き立てる謎の声が響く。そして不気味な童謡の歌詞通りに、彼らが一人ずつ殺されてゆく。強烈なサスペンスに彩られた最高傑作。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】絶対に結果が予想できない。何度読んでも新鮮な驚きと、これを思いついた作者への尊敬の念がやまない。今まで推理小説を読んだことがある人もない人もこの本を読んで、今までの常識が覆ることは間違いないだろう。

(椎名いづみ)

◆面識のない10人の男女がある孤島に招待された。だが、島に招待主はおらず、夕食のときに彼らの過去の犯罪を暴く声がある。そして不気味な童謡の歌詞通りに1人ずつ殺されていく。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】最後まで誰が犯人か、どうやって殺されたか全く見当がつかない物語で、ずっとドキドキして読み進めることができます。目からウロコの結果に何回も繰り返し読んでしまうこと間違いなしです。

(藤川実由)

チョン・ハングヨン著；黒河星子訳
『アンニョン、大切な人。』（かんき出版）

929.14/T

◆「わたしたちへ」「わたしへ」「あなたへ」「愛に」「別れに」の5部構成になっており、短い詩が1部の中にたくさん入っています。1つ1つの詩は短いですが、愛がたくさん詰められています。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】辛いとき、悲しいとき、どんな状況にいても、自分に寄り添ってくれる詩がたくさんあるので、心のデトックスをしたい時やケアをしたい時にぴったりです。新しい考え方や自分をもっと大切にしようと前向きな気持ちにさせてくれます。

(長澤来未)

J.K. ローリング著；松岡佑子訳
『ハリー・ポッターと賢者の石』（静山社）

933.7/ロ/1-7

◆意地悪な親戚ダーズリー家の元でいじめられながら暮らしていたハリー・ポッター。11歳の誕生日を迎えようとしていたある日、ハリーの元にホグワーツ魔法学校から入学許可証が届きます。自分が魔法使いだと知ったハリーは、後日キング・クロス駅にある9と4分の3番線からホグワーツ特急に乗り込みます。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】「ハリー・ポッター」シリーズが始まった第一巻！ハリーがホグワーツの生徒に出会い、魔法に触れ、謎に迫っていくのが、わくわくしておすすめです。

(千葉有紗)

◆ハリーが自分が魔法使いだと知り、ホグワーツに入学し、ヴォルデモートを倒す話です。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】映画にもなっているので、本があんまり好きじゃない人でも読みやすいのでオススメです！

(中村麗愛)

◆11歳の誕生日に自分が魔法使いであると知らされたハリー・ポッター。その日から彼の人生は一変する。魔法学校に隠された秘密、賢者の石を狙う恐ろしい敵。小さな魔法使いハリーのハラハラドキドキの冒険ファンタジー小説、第一巻。

【自分が読んだ学年】

【お勧めの点】今では世界的大人気作のハリー・ポッターシリーズの第一巻。まだ魔法のことを何も知らないハリーがこれから始まる初めての生活にワクワクするところで、自分も一緒にワクワクした気分になれるところ。

(小形めぐ)

◆ハリー・ポッターシリーズの第一巻。主人公がホグワーツ魔法魔術学校へ入学し、困難に立ち向かっていく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】全7作、すべてがハラハラドキドキし、最後まで読み進められるおもしろさ。色々な発見があり、とても楽しいです。

(志保見知佳)

◆孤児の少年ハリーポッターの元に、ホグワーツ魔術学校への入学を許可する手紙が無い込んだ。彼の両親は有名な魔法使いで彼もその血を受け継いでいたことが判明。ハリーは無事入学し友達もできるが、やがて学校に隠された驚くべき秘密に気付く。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】ハリーポッターは全7巻からなっていて、一冊がとても読みごたえのある小説です。1巻目の賢者の石も、約455ページほどあり、読み切るには時間がかかるため、ぜひ時間に比較的余裕のある中学生のうちに読むことをオススメします。

(泉川楓佳)

◆映画でも大人気のハリーポッターシリーズです。魔法使いの世界を壮大な世界観で書いたファンタジー物語です。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】とにかく長いですが、ハマっちゃえば一気に読めます。何度読みかえしても面白いので、どんな世代にもおすすめです。

(大迫結奈)

◆世界的大ヒットを記録し、今でも大人気のハリー・ポッターシリーズの第一巻。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】本で読んでも、映画で見ても、どちらもとてもおもしろい。

(野田莉子)

フランツ・カフカ； 中井正文訳

『変身』(角川文庫)

943. 7/カ/(b)

◆ある日、主人公が虫になると周囲の対応が変わって…。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】自分にとって厄介な存在に対する対応を考えさせられる。

(耕田真帆)

ダニエル・キイス著； 小尾英佐訳

『アルジャーノンに花束を』(早川書房)

933. 7/キ/(b)

◆32歳で幼児の知能しかないパン屋の店員チャーリーは、ある日、ネズミのアルジャーノンと同じ画期的な脳外科医手術を受ければ、頭がよくなると告げられる。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】物語の話の内容から、次を読みたくなるような文章で、主人公の気持ちを思うと、涙なしでは読めません。

(武藤瑞季)

キャスリン・ラスキー； 中村佐千江訳

『ガフルの勇者たち』(KADOKAWA)

933. 7/ラ/1

◆フクロウたちが高度な文明を育む世界の物語。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】豊かなキャラクターと、続きが気になるシリーズものストーリー。

(三輪晴希)

モンゴメリ著； 村岡花子訳

『赤毛のアン』(新潮社)

933. 7/モ/1

◆愛に飢えた、元気な人參あたまのアンが巻き起こす愉快な事件の数々。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】人生の厳しさと、温かい人情を感じられる。

(木下叶梨)

◆11歳のアンが孤児院から一軒家に住む老兄妹にちょっとした手違いで引き取られるお話。

【自分が読んだ学年】 小学校高学年

【お勧めの点】アンが町や学校で事件を起こしながらも、少しずつみんなに受け入れられるようになり、愛されながら成長していくところが読みどころだと思います。

(栞原一那)

ドナ・ジャクソン・ナカザワ著；清水由貴子訳
『小児期トラウマがもたらす病』(パンローリング)

493. 09/N

◆小児期に両親の死、両親の離婚、虐待といった「逆境」を経験した人は成人してから、体のあらゆるところに不調をきたす割合が高くなる。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】あらすじに書いたように、なぜ不調が起こるのかが、この本には載っています。また、その実例を読んでとても驚きました。「人間の身体ってすごいな」と思える本です。

(北村彩奈)

0. ヘンリ著；大久保康雄訳
『0. ヘンリ短編集』(新潮社)

933. 7/へ/1

◆ショートショートの名手といわれているアメリカ人小説家0. ヘンリが書いた短編集。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】短編集なので、本を読みたいと思ったとき手軽に読める。内容も皮肉なものから、笑えるもの、ブラックジョークのものと、色々楽しめます。

(大塚彩花)

R. J. パラシオ著；中井はるの訳
『ワンダー』(ほるぷ出版)

933. 8/P

◆遺伝子の疾患で人とは違う顔で生まれた10歳のオギー。5年生の初日に登校したオギーの風貌に皆は戸惑うが、頭がよく、面白く、前向きで優しい彼の魅力に気付いていく。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】私の考え方を広げてくれた一冊です。感受性豊かなこの時期だからこそ読むことをおすすめします。この本を読み終わる頃には、心は暖かくなっていて、世界が少し明るく見えているはずです。

(未藤万乙里)

◆顔が周りの子と少し違う男の子が、勇気を出して色んなことに挑戦する話。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】すごく読みやすくおすすめです。映画化もされているので合わせて楽しむことができます。

(中村俐子)

R. J. パラシオ著；中井はるの訳
『もうひとつのワンダー』(ほるぷ出版)

所蔵なし

◆『ワンダー』の中で描かれなかった子どもたちそれぞれの背景を描いた本。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】『ワンダー』の中では知ることのできなかつた、ジュリアンのバックグラウンドを知ることができる点。

(白杓花菜子)

シャルル・ペロー著；和佐田道子編・訳
『シンデレラ』（竹書房）

933. 8/デ/23

◆継母と2人の義姉と暮らすシンデレラ。

【お勧めの点】人は外見ではなく、中身だと思わせてくれる。

（加納朱璃）

E. A. ポオ；中野好夫訳
『黒猫・モルグ街の殺人事件』（岩波書店）

933. 6/ポ

◆推理小説の祖と言われている『モルグ街の殺人』。人間の仕業とは思えない殺人事件が起きて、頑張って解決します。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】すぐ読み終わるのに、読んだ感じがあっていいです。ラストにも驚きます。

（鮫島心寧）

サン＝テグジュペリ著；河野万里子訳
『星の王子さま』（新潮社）

953. 7/サ

◆砂漠に飛行機で不時着した“僕”が出会った男の子。それは小さな小さな自分の星を後にして、いくつもの星を巡ってから7番目の星・地球にたどり着いた王子さまだった。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】刊行後70年以上経った今も世界中でみんなの心をつかんで離さない。最も愛らしい王子様を優しい日本語でよみがえらせた点。

（伊藤涼花）

76 回生からの読書案内（中学生）

発行日 2024 年 7 月 5 日

監 修 司書教諭 幸森孝子

発 行 甲南女子中学校・高等学校 図書館

この冊子は、卒業生が皆さんにぜひ読んでもらいたいお薦めの本を紹介しています。

皆さんの先輩が、いつごろ、どんな本を読んでいたのか、この冊子全部に目を通すだけでも、おもしろいかもしれません。また、自分の知らなかった作家やジャンルの本を読みたいときにも、役に立ちます。

この冊子を発行した時点で図書館にある本には、書名の後に請求記号をつけています。図書館で本を探すときの参考にしてください。